



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



新年のご挨拶 近畿中国森林管理局長 柏原 卓司



明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては新年を迎え、ますます御清祥のことと心からお慶び申し上げます。

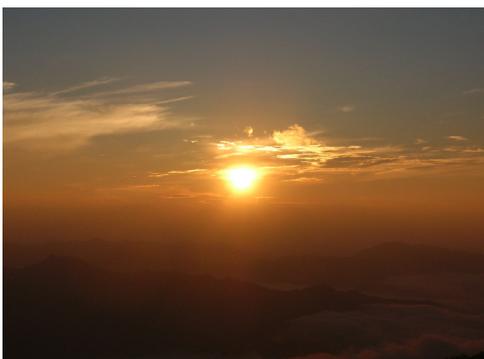
一昨年に始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、昨夏、危機的状況に至り、東京オリンピック・パラリンピックもほとんどの会場で無観客となりましたが、その後の関係者の御尽力もあり、最近はかなり沈静化してまいりました。人類と感染症との関係には難しい問題もありますが、本年は更に状況が改善されることを願っております。

林業・木材産業関連では、昨年の木材需要は一昨年の減少から反転して高まりを示し、輸入木材の不足、木材価格の上昇が生じました。この状況はウッドショックと呼ばれて関係方面を大いに騒がせました。現在はピークを過ぎつつありますが、輸入木材の供給リスクが厳然として存在する中、国産材のシェアを拡大し、資源価格や為替レートの変動を含む海外情勢の影響を受けにくい環境を整備していくことの重要性を再認識したところです。

さて、我が国の森林の約4割を占める人工林の半数が50年生を超えて主伐期を迎えようとしている中、その適切な伐採・利用を進めるとともに、伐採後の再生林を推進することによって、森林資源の循環を確実なものとしていくことが重要であります。

昨年6月に閣議決定された新たな「森林・林業基本計画」においては、林業・木材産業が内包する持続性を高めながら成長発展させ、人々が森林の発揮する多面的機能の恩恵を享受できるようにすることを通じて、社会経済生活の向上とカーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」を実現することとされ、今後の施策の方向として、①森林資源の適正な管理・利用、②伐採から再生林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」の展開、③木材産業の競争力の強化、④都市等における「第2の森林」づくり、⑤新たな山村価値の創造、の5本の柱が打ち出されたところです。

近畿中国森林管理局といたしましても、「新しい林業」の実証、ICT等の活用、シカ被害対策、治山・災害復旧対策の推進等、国有林における公益重視の管理経営を実践しつつ、森林・林業による「グリーン成長」の実現を目指して、幅広い関係者との連携、民有林への支援、技術の開発・普及等を進め、あわせて国民参加の森林づくりや多様な情報受発信に努めることを通じて、基本計画の実現と近畿、中国、北陸地域の発展に貢献したいと考えておりますので、より一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



山上ヶ岳日の出：鳴川山国有林（奈良県）

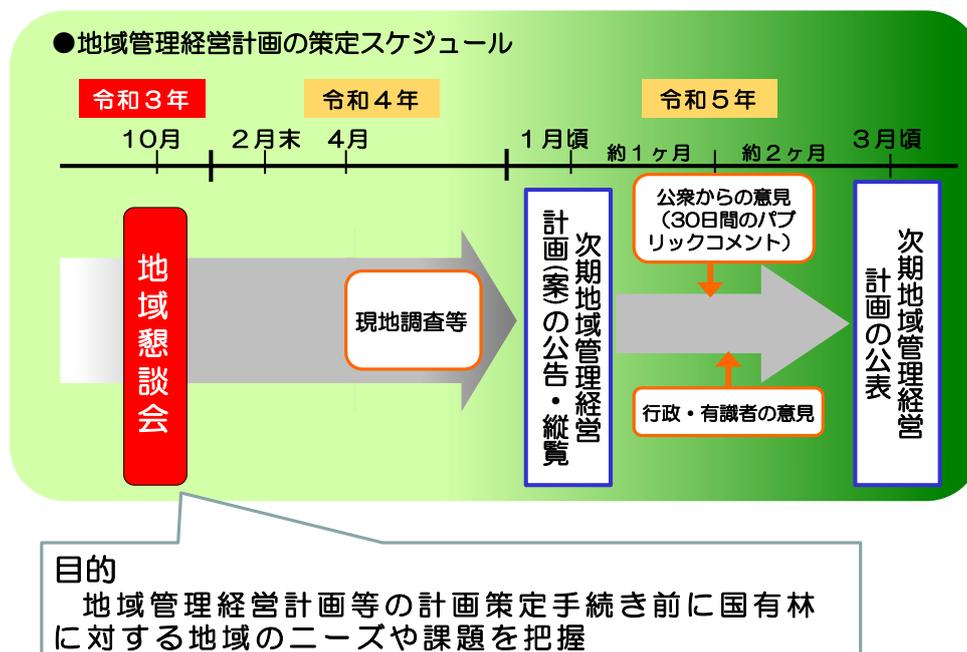
結びに、新しい年が皆様にとって健康で実り多い年となりますことを祈念申し上げます、新年の御挨拶とさせていただきます。

国有林における森林計画～地域懇談会の開催について～

【計画課】

森林は、国土の保全、水源の涵養、生物多様性の保全、地球温暖化防止等の多面的機能を有しており、国民生活に様々な恩恵をもたらす「緑の社会資本」です。とりわけ、日本の森林は、戦後に積極的に造成された人工林を主体に蓄積が年々増加しており、森林資源を有効に利用しながら森林の有する多面的機能の持続的な発揮を図るため、森林の現況、自然条件、社会的条件等に応じて長期的な視点に立ち、計画的に森林の整備及び保全を進めながら、望ましい森林の姿を目指していく必要があります。

これらの目標達成のため、国有林では全国を158区域に分割している森林計画区ごとに地域管理経営計画等の森林計画を策定し、各森林計画区内における国有林野の適切な管理経営を行っています。



近畿中国森林管理局管内には40の森林計画区があり、そのうち国有林が所在する38の森林計画区で地域管理経営計画を策定しています。それぞれの地域管理経営計画の計画期間は5年間となっており、38の森林計画区を5つのグループに分けて毎年1グループずつ新たな計画を策定しています。



現地見学会の様子

地域管理経営計画の作成にあたっては、国有林に対する地域のニーズや課題を把握し、適切に管理経営を行っていくため、計画策定年度の前年度に「地域懇談会」を公開で開催し、地域の皆様からの御意見をいただいています。

また、地域懇談会では現地見学会を併せて開催し、国有林の取り組みを参加者にわかりやすく紹介しています。

令和3年度は、令和4年度に策定する若狭森林計画区（福井県）など8つの森林計画区において

山崎高等学校の生徒がインターンシップで就業体験をしました。

【兵庫森林管理署】

当署管内の宍粟市内にある兵庫県立山崎高等学校森林環境科学科では、「事業所における就業体験を通して、働くことの喜びと厳しさ（勤労観）、さらに、職業人としての心構え（職業観）を学習させる」ことを目的として、インターンシップ（就業体験実習）を行っており、当署においても、令和3年11月8日（月）から12日（金）の5日間、2年生2名の生徒を受け入れました。

5日間の就業体験では、スギ苗木植栽試験地での成長量比較調査、林道の維持修繕作業、森林作業道のGPS



コンパス測量の体験

測量・事業計画箇所踏査、シカ対策事業の見学、ナラ枯れ防除のための枯損木調査、保護林の看板設置作業、治山工事の見学・

測量など、現場第一線での様々な業務を体験しました。

期間中は、慣れない作業ばかりで大変だったと思いますが、^{やまよそお}山荘いだした秋空の下、当署職員と一緒に積極的に作業を行い、また、各種作業の役割や必要性などについて積極的に質問するなど、意欲的に取り組んでいました。



シカわな設置の体験

現場業務を体験する中で、卒業後の進路のひとつとして、国有林野事業に興味を持つ機会となった就業体験となりました。

令和3年10月8日（金）から10月29日（金）にかけて地域懇談会を開催し、地元自治体の職員、森林・林業関係者、森林に興味のある方などが参加されました。



柏原局長の挨拶

岡山森林管理署管内の吉井川森林計画区の現地見学会では、^{つがわやま}津川山国有林（岡山県津山市）において、シカ捕獲事業の取組などを紹介しました。

また、午後からの地域懇談会では、国有林の取り組みと今後の計画策定の考え方などをプレゼンテーション形式で説明しました。

参加者からは、国有林で取り組んでいる一貫作業システム等の低コスト林業の普及や、ナラ枯れ等の森林病害虫対策等について御意見をいただきました。



地域懇談会の様子

これらの御意見等をふまえながら、令和4年度には現地調査、関係自治体や学識経験者への意見聴取などを行い、計画を策定していくことになります。

林業の成長産業化を目指して ～ ICT による森林管理とシカ被害対策～現地検討会の開催

【奈良森林管理事務所】

令和3年12月9日（木）、奈良県吉野郡天川村に位置する入谷国有林において、「林業の成長産業化を目指して～ICTによる森林管理とシカ被害対策～」と題して現地検討会を開催しました。当日は、奈良県をはじめとした県内の行政機関、林政に携わる事業者など、総勢27名の方々に御参加いただきました。



開会の様子

検討会は、まず、「ICTによる森林管理」について、近畿中国森林管理局における試験研究機関である「森林技術・支援センター（岡山県新見市）」篠原所長から地上レーザースキャナによる森林計測、ドローンを使ったシカ防護柵点検の手法等について講義を行い、続いてシカ被害対策として、近畿中国森林管理局が推奨している「小林式誘引捕獲法」について、考案者である近畿中国森林管理局保全課小林係長が講義・実演を行いました。



地上レーザースキャナの説明



背負い型スキャナ計測器の実演



杖型スキャナ計測器の実演・説明

参加者の方々の反応も良く、地上レーザースキャナについて初見の方も多かったせいか、実演等を食い入るように見学されていました。

シカの捕獲手法である「小林式誘引捕獲法」につきましても、考案者からの設置に関する説明及び実演に興味津々の様子でした。



小林式誘引捕獲の説明



小林式誘引捕獲ワナ設置の実演

検討会終了後、参加者の皆様に提出いただいたアンケートにも①非常に満足した、②満足したとの御意見がほとんどで、今後もこのような現地検討会の開催を望む声が非常に多い結果となりました。

今回の現地検討会を通じて感じたことは、各市町村が中心となって森林経営管理法に基づき、森林環境譲与税を活用し、地域の森林所有者をとりまとめ、市町村森林整備計画による中長期的な計画を行う中で、森林資源の把握を行う手法として担い手不足を軽減する意味でも「地上レーザースキャナ」の活用は画期的である反面、機器購入における予算の確保や森林計測における精度の克服（樹高計測の精度）などの課題があると考えます。また、「小林式誘引捕獲法」についても、国有林での捕獲効率の向上など成果が上がる一方、民有林への普及まで至っているとは言いがたいこと、狩猟者の後継者問題など、様々な課題が顕在しています。

今後もこれら課題を踏まえ、国有林のフィールドを活用した効果検証を行いつつ、得られた成果については、今回のような現地検討会の場を通じて、広く普及啓発に取り組んでまいります。

「第21回東山クリーン作戦」を実施しました。

【京都大阪森林管理事務所】

令和3年10月30日（土）に、京都市の將軍塚東山山頂公園周辺において、清掃活動「第21回東山クリーン作戦」を京都伝統文化の森推進協議会*との共催で実施しました。

今年度は、清水寺門前会、祇園商店街、京都インストラクター会ならびに近畿中国森林管理局 OF 会 京都支部から総勢22名の参加を得て、晴れ渡った心地よい気分のなかで実施しました。

参加者からは、「皆さん、ここにきれいな景色を見に来ているのに、どうしてゴミが捨てられるのかな」、「ゴミを拾う私たちの活動を見て、一人でも多くの方がゴミを拾ってくれるようになればいいですね」といった声も聞かれました。お忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。

回収したゴミの処理は京都市環境政策局にご協力いただきました。



回収したゴミの山

*京都伝統文化の森推進協議会：京都東山の国有林（約190ha）を活動拠点として、京都に根付く貴重な歴史的文化資産を継承し、自然力・文化力・人間力を再創造し、日本文化を再生する森林づくりを進めるために設立されました。



参加者で記念撮影

「にちなん中国森林林業アカデミーの現地実習」に協力しました。

【鳥取森林管理署】

令和3年11月11日（木）、同アカデミーの学生14名と引率1名の参加を得て、西鴨国有林で事業実行中の伐採・造林の一貫作業システム現場において、現地実習を実施しました。この実習は、同アカデミー設立時にサポートチームとして当署が参画する計画となっており、その協力の一環として令和元年度から実施しているものです。



国有林の各種取組について説明

ける低コスト造林、複層林施業及び国有林における安全作業の取組、並びに大山治山事業の概要等について説明し、午後から、実際に带状複層伐及びシカ防護柵の設置状況の観察、コンテナ苗の植樹実習等を実施しました。

学生からは、「2,000本/haで植栽しているということですが、植栽本数はどの程度まで少なくできるのか」、「コンテナ苗を植付け



コンテナ苗の植栽を体験

るのは普通苗に比べて容易だった」、「群状と带状の複層伐はどちらが効率的か」など熱心な質問が多数あり、今後の学生さんたちの資質・技能の向上の一助になったのではないかと思います。

鳥取森林管理署では、今後も同アカデミーの活動に協力し、森林・林業による「グリーン成長」の実現を担う人材の育成に向けた取組を引続き行ってまいります。



実技を振り返っての質疑応答の様子

東広島市立八本松小学校の生徒が災害現場で防災学習を受けました。

【広島森林管理署】

広島森林管理署（山地災害復旧対策室）では、地元の東広島市八本松^{はちほんまつ}住民自治協議会からの要請により、令和3年10月15日（金）に東広島地区民有林直轄治山事業（八本松区域）の現場において、八本松小学校5年生（3クラス、103名）に対して、「治山ダムができるまでの過程と、治山ダムが土砂災害を防ぐ仕組みを学ぶ防災学習」を総合的な学習の時間に行いました。

もっと知ろう治山工事こと

①何が起ったの？



・2018年7月6日から7月7日の間、24時間で**301mm**の大雨が降った。

・大雨が原因で**土石流（どせきりゅう）**が、多くの場所で発生して、大きな被害となった。

災害のときの様子



家の近くまで、山から土や水や倒れた木が流れてきている

②土石流って何？

土石流とは

山の斜面から崩れた土砂や谷の土砂・石などが、大雨によって水と一緒になって押し流される現象

こんな場所で起こりやすい！

- ・過去に土石流があった
- ・沢に大きな石やたくさん土砂がある
- ・上流が山くずれで荒れている



土石流のスピードは？

時速 40km～50km!!
(車と同じくらい)

少しでもこわいと思ったら
すぐに安全なところへ逃げよう

説明に使用したパネル

防災学習を実施した八本松区域（曾場ヶ城山^{そばがじょうやま}北斜面）は、平成30年7月豪雨災害で土石流や山腹崩壊が発生し国道2号線バイパスや市街地に大きな被害を及ぼした場所です。児童達は令和元年に完成した治山ダムの下流側スペースに集合し、山地災害復旧対策室の澤井室長から、「空からの災害現場」や「治山ダムが出来るまでの過程」、「治山ダムの仕組みと効果」について、写真やパネルを使って説明しました。

説明後の質疑応答では児童から「治山ダムは何故この場所に造られたのか」、「治山ダムのコンクリートはトラック何台分くらい必要か」、「治山ダムに今どのくらいの土砂が溜まっているのか」などの質問があがり、澤井室長から「空からの写真や実際に現場を歩いて調査した結果に基づき、この場所に治山ダム（溪間工）や山の緑化等（山腹工）を設置することとしました」、「一般的なコンクリートミキサー車で約200台くらい必要です」、「現在は高さの半分まで土砂が溜まっています」とわかりやすく回答しました。

また、中には「治山ダムが造られると、どのくらい流れが遅くなるのか？」などと踏み込んだ質問もあったことから、模式図を活用しつつ「山が崩れにくくなり、傾斜も緩やかになるため、水の流れがゆっくりとなる」と解説するとともに、「山腹工による発生源対策」と「溪間工による溪床の保全」を計画的に行うことで土石流の発生や抑制を行うといった治山事業の仕組みを具体的に分かりやすく説明する場面もありました。

普段身近に見ることのない治山ダムを目の当たりにしつつ説明を受けた児童達は、真剣にメモを取ったり、率直な疑問を投げかけたりと、防災に関する考えを巡らすこととなり、このことは「私たちの町の防災学習」として有意義なものになったと思います。

学習後、「ありがとうございました」と元気に挨拶して帰って行く児童達を見送りながら、地域防災という仕事に携わることの責務の重さを改めて認識するとともに、児童達からは「大きなエネルギー」をいただきました。



治山ダムでの説明の様子

冬下刈り実施による情報交換会を開催しました。

【山口森林管理事務所】

令和3年11月25日（木）、山口森林管理事務所における「冬下刈り実施による情報交換会」を開催しました。

当日は晴天に恵まれ、山口県、山口市、萩市、林業事業体関係者等、総勢14名の方に参加いただきました。

情報交換会では、まず事業地である滑山国有林^{なめらやま}の概要説明と四国森林管理局や近畿中国森林管理局和歌山森林管理署が実施した冬下刈りの事例を紹介した後、今年度冬下刈りを実施した場所に移動し、平木森林整備官より事業地の施業履歴等を説明した後、現地を確認しながら情報交換を行いました。

請負事業者から、「安全面では冬下刈りの方がいい」「夏も冬も工程的にはそんなに違いがない」「作業員



現地確認の様子

の労働軽減から下刈りの作業が冬にできれば作業の調整がやりやすくなる」等の意見が出され、地方公共団体からは、造林事業等における省力化や省略化等の取組や、昨年より冬下刈りの試験を行っている萩市からは試験地の現地見学が行えるとの情報を頂きました。

最後に参加者全員に、冬下刈り実施による情報交換会に関するアンケートに協力を頂き、「冬下刈り箇所を初めて見学した」「下刈りについては、現地の状況に応じて夏場・冬場又は実施しない等、植栽木の成長に合わせて、効果的で効率的な時期等を選択できるようにすることが大切」「今後も情報交換会を続けていただきたい」など意見をいただき情報交換会を終了しました。



今年度冬下刈りを実施した箇所

森林のギャラリー（局庁舎1階）



【技術普及課】

○森林のギャラリー（局庁舎1階）現在の展示内容は下記の局ホームページでお知らせしています。

来年1月6日（木）から「奈良県吉野町」「福井県池田町」「一般社団法人全国燃料協会」の展示を行う予定です。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>



○近畿中国局フォレスターニュース No56 を発行しています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/sidou/foresuter/katudou.html#> 近畿中国局フォレスター NEWS



【箕面森林ふれあい推進センター】

○こだま通信 118号を発行しています。

https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/booklet/kodamatushin.html



【三重森林管理署】

○大杉谷国有林からの手紙(53通目)を発行しています。

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/mie/information/oosugitegami.html>



【総務課】

○ホームページで、紙芝居やYouTube動画を掲載しています。

紙芝居：<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/kamisibai.html>



YouTube動画：<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/douga.html>



花草木

【クロマツ】

クロマツ（黒松、学名:Pinus thunbergii）は、日本と韓国の海岸に自生するマツ属の1種です。別名はオマツ（雄松）です。和名クロマツの由来は、アカマツと比較して、幹の樹皮が黒褐色である松であることから名付けられています。このほか、クロマツとアカマツの違いは、アカマツが、内陸部生え、葉の先に触れても痛くなく、松笠が小さく、冬芽が赤い、のに対し、クロマツは、海岸沿いに生え、葉の先端が痛い、松笠が大きい、冬芽が白い、などの点があります。ちなみに松茸が生えるのはアカマツの根元でクロマツには生えません。

マツ（松）の語源については、正確にはよくわかっていませんが、樹齢を長く保つことから、「タモツ」から「モツ」、さらに「マツ」と転訛したという説や、冬に霜や雪を待っても何も変化がないので「待つ」から来ているとする説などあるそうです。

日本では防風の機能を有するほか汚染と塩害に強いので、砂防林・防砂林・防潮林として海岸線への植樹が古くから行われています。いわゆる浜にある松原はクロマツで構成されています。また、一般的な園芸用樹種であり、日本庭園の主木として用いられ、古来から盆栽用の樹種としても使われています。江戸時代の東海道をはじめとする旧街道沿いに並木として植えられた樹種の多くがクロマツであり、一里塚にもよく植えられていたそうです。



大阪市内の公園で撮影したクロマツ（松笠、樹皮）

我が所のスタッフ

滋賀森林管理署

森下 凌汰（もりした りょうた）（令和3年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

治山グループの係員として、主に山腹や林道などの復旧工事に関する業務や、災害が起こった際に土砂の撤去作業を行ったり、崩落してしまった箇所を測量を行いそのデータを元に積算、公告、監督業務を行っています。また勉強もかねて、他のグループの業務の手伝いに現場に行ったりすることもあります。

入庁して半年がたち、今では自分の現場を持つようになったことで必要な資料が増え、覚えなければいけないことだらけの日々ですが、これからも少しずつ業務を覚えていき、自分自身で業務を遂行することで、これから入ってくる職員に頼られる先輩になりたいと思い、日々精進しています。

【職場の雰囲気は？】

優しい方や、話しやすい方、面白い方も多く相談しやすく活気あふれる職場です。

【林野庁の魅力は？】

やはり、実際に現場に行くことがあるところだと思います。日本の豊かな自然や、美しい風景、様々な生態系を管理することができ、この先何十年と自分の業務が形に残るため、やりがいのある仕事です。



監督業務を行っている様子



ICT研修での測定の様子

森林事務所紹介

横田森林事務所 (島根森林管理署)

首席森林官 高木 弘康 (たかき ひろやす)

島根森林管理署横田森林事務所は、島根県南東部の奥出雲町に所在し、斐伊川^{ひいかわ}流域森林計画区になる松江市、出雲市を含む4市4町に至る国有林5,614ha及び隠岐流域森林計画区を含む官行造林地2,372haを管理しています。



猿政山国有林

当事務所では、首席森林官と行政専門員の2名で、広範囲にある国有林の管理を行っています。国有林まで片道2時間近いところもあり、現地滞在が4時間以上とれないことも悩みの種です。全国に先駆けて森林共同施業団地が設定された八川^{やかわ}国有林において、今年度は森林整備事業で誘導伐・活用型間伐を実施し、素材生産量は1,590m³となりました。

次に、付近でも珍しい花の咲く国有林を紹介します。

奥出雲町にカタクリの花が咲く船通山^{せんつうざん}国有林があり、春から秋にかけて多くの登山者で賑わいます。



カタクリ



オオヤマレンゲ

また、広島県との県境にある猿政山^{さるまさやま}国有林の山稜には、この地域には希少なオオヤマレンゲが分布しています。6月中旬ごろに開花し可憐な白い花を咲かせ、近づくとほのかな香りが漂い山に清涼感を引き立てます。生育数は少ないですが、花の好きな登山者がこの希少なオオヤマレンゲを楽しみに遠くからも登山に訪れています。

当事務所では山頂パトロールを行い、開花観察等の保護管理に努めています。さらに、猿政山の北側からは鯛ノ巣山^{たいのすやま}の頂が遠望できます。鯛ノ巣山はイザナミ国有林内にあり、中腹の岩棚に神話のイザナミの命^{みこと}が奉ってあることからイザナミ国有林の名前の元になっています。

その昔この島根県東部地域では、たたら製鉄の砂鉄採取が行われていました。開発後に田畑ができ、仁多米とそばが特産となっています。特に新そばの季節になると県外からも多くの人がそばを求めにきて、地元の人でもなかなかお店に入ることが困難です。しかし、大変おいしいそばですので、是非一度は食していただけたらと思います。(ただし、長い時間列に並び待つことになる可能性が高いです。)

国有林野は水源かん養など大切な役割を果たしており、将来に続く森林を育成していきます。また、希少な動植物の保護管理を通じて森林事務所が地域に必要とされる存在であり続けられるように頑張っていきたいと思います。



鯛ノ巣山山頂からの眺望



鯛ノ巣山山頂

シリーズ『国有林 最前線！』

～100年以上続く^{だいせん}大山の治山事業～

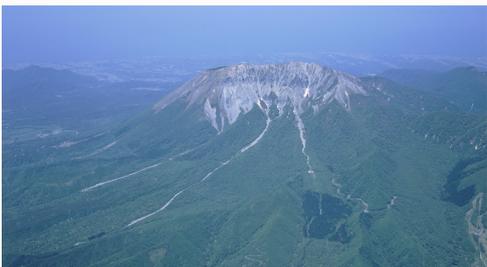
鳥取森林管理署

中国地方の最高峰として知られる大山（標高 1,729m）は、一帯が^{だいせんおき}大山隠岐国立公園に指定されており、大山主峰を中心として周辺に広がる森林約 5,600ha は国有林野であり、鳥取森林管理署が管理経営をしています。その山容は^{ほうきふじ}伯耆富士の名で親しまれているとおり、標高 800 m 以下では富士山のように広大な裾野を広げた容貌をしていますが、頂上の稜線を境として「北壁」「南壁」「東壁」と呼ばれる荒々しく険しい大崩壊地が見られます。



伯耆富士（大山）

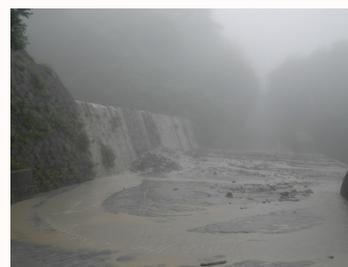
ここから流出する土砂等は年間約 7 万 m³ に及ぶため、この大崩壊地からの土砂の流出を防ぎ、地域住民の安心安全を守るため国有林治山事業を大正 6 年（1917 年）から実施しており、平成 29 年（2017 年）には大山治山事業 100 周年を迎え、今日も継続して治山事業に取り組んでいます。これまで 200 基以上の谷止工を整備し大山の^{ふもと}麓地域を土砂流出などから守ってきました。しかしながら、まとまった雨が降ると堆積した土砂が県道（大山環状道路）に流れるなど、未だに地域住民の生活に影響を与える状況が続いています。



南壁



連なる谷止工



環状道路

また、登山や大山寺などの史跡やスキー場などの観光施設により多くの人が訪れる箇所でもあるため、自然景観に配慮した治山工事として、コンクリート谷止工や護岸工の型枠に自然石を利用した化粧型枠を使用しています。

さらに、工事箇所は国立公園内であることから、自然環境に配慮しながら大山産のヤナギを育苗し植栽しています。



自然石を利用した型枠



連続した谷止工（二ノ沢）



コンクリート護岸工
（化粧型枠）



大山産のヤナギ植栽

その他にも谷止工や護岸工の盛土面や崩壊地斜面を緑化する工法を用いるなど持続可能な森林環境の保全に向けた取組を行っています。これらは本来森林が有する機能として掲げられる、水質の保全や気候変動の緩和、山地災害の防止といった機能を継続させる取組です。

このように今後も大山の自然を後生に伝えていくため、また、SDGs^{*}の達成に向け、地域や関係団体等と連携し地域密着で地域や観光客の安心・安全を守っていく治山事業に取り組んでいきます。

※SDGs：2015 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能でよりよい世界を目指す国際目標」で、17 の目標には森林が関係する「陸の豊かさを守ろう」も含まれており、日本としても積極的に取り組んでいます。